

チーバくと一緒に
手話等の世界を
学んでみよう



千葉県マスコットキャラクター
チーバくん

基礎編

1

手話の基本

おいしい

右手の手のひらを右側のほおにつけて、
2~3回軽くたたきます。



おいしい



おいしい!



わあっ、おいしい!

基礎編
2

手話のしくみ



形から

山の形にそって片手を動かします。



家

両手で屋根の形を
作ります。

形から

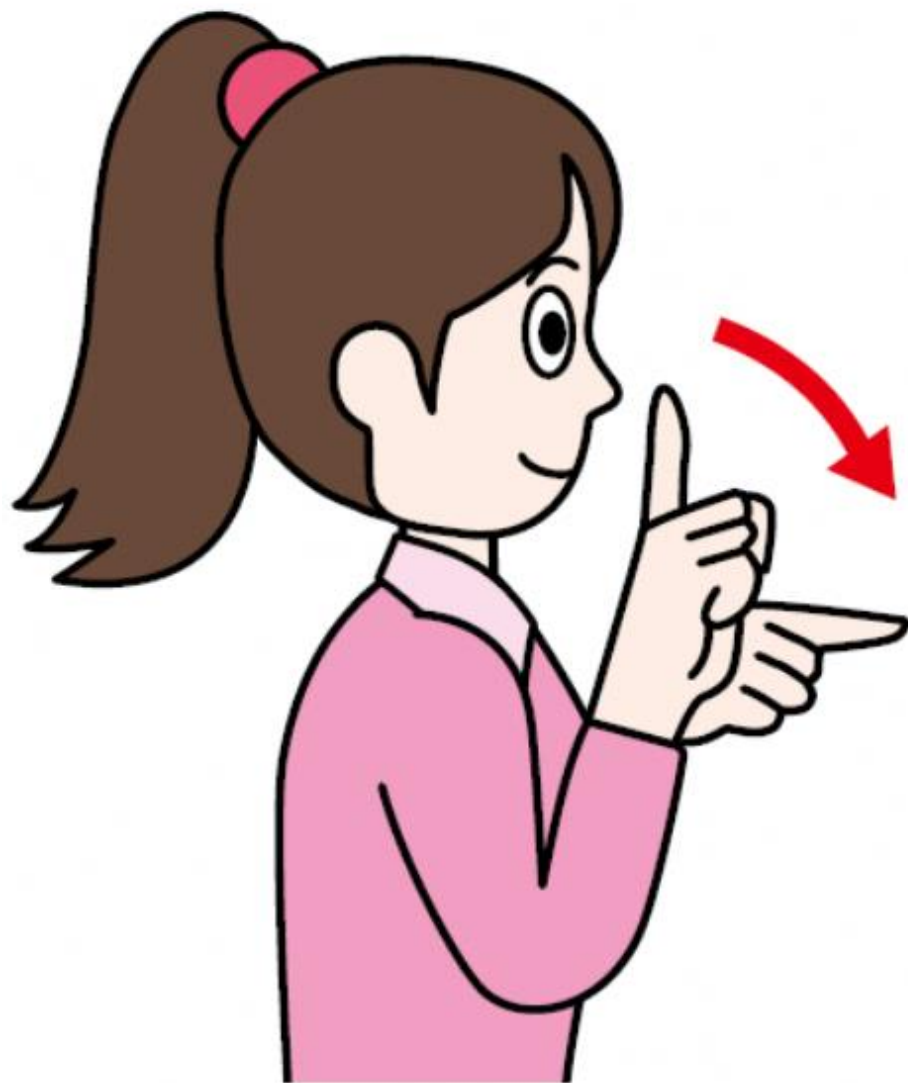


昨日

手話では身体の前方が未来、後方が過去を表わします。

人差し指を前方から後方へ動かします。

動作の方向や位置から



明日

手話では身体の前方が未来、後方が過去を表わします。

人差し指を後方から前方へ動かします。

動作の方向や位置から

使いなれた言い方から



びっくり

左手の手のひらの上に右手2指を立てて飛びあがるようにして2指を離し、またつける。

顔やからだの表情から

やや笑った顔で
(ふざけて／冗談
で) ウソだよ!
それはウソだろ!?



ウソ

右手の人差し
指で、ほほを
つつきます。



怒った顔で
ウソ言うなよ!!

手話の歴史的背景



明治11年
日本初の
ろう学校設立

明治11年京都に日本で初めてろう学校が設立され、それまで孤立していたろう者が集団を形成し、手話はろう学校を中心として全国に広がっていきました。

しかし、明治13年のろう教育に関する国際会議で口話法の優位が宣言され、日本でも大正時代末期から、ろう学校の教育は口話法が主流となり、手話の使用が制限・禁止されることになりました。これらの事から、手話を言語として使用する集団がいるにも関わらず、長い間、手話は言語として認められてきませんでした。

その後、国際的に手話が言語として認められ、平成23年に障害者基本法の改正により日本でも手話が言語として認められることとなりました。

会話編
1

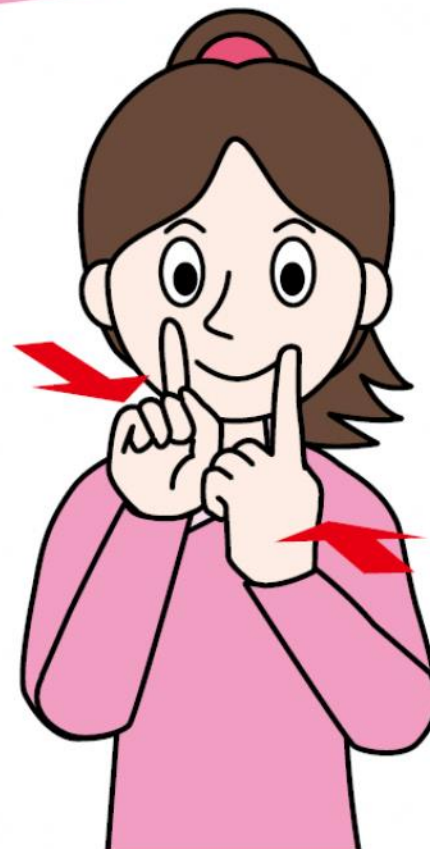
あいさつ

はじめまして



初めて

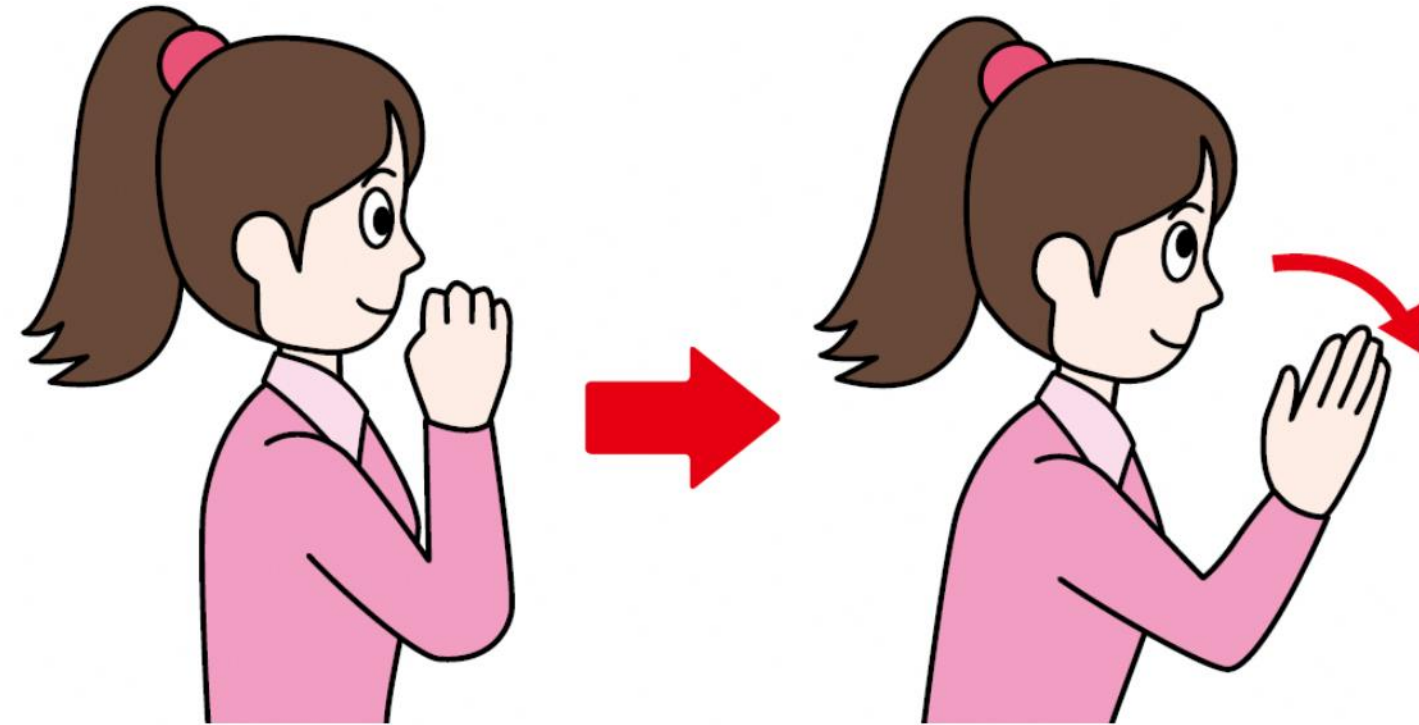
右手の指を閉じながら上げ、
人差し指を伸ばします。



会う

両手の人差し指を立て
て、前後から寄せます。

よろしくおねがいします。



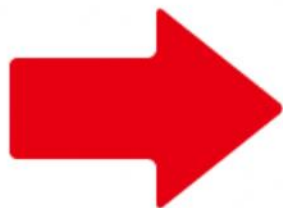
右手のこぶしを鼻につけ、前に下げながら手を開く。こぶしを鼻につける「よい」と、手を下げる「お願い」で「よろしくおねがいします」となります。

お名前は何ですか？



名前

左手の手のひらに、
右手の親指の腹を
つけます。



何

右手の人差し指
を立てて、左右に
軽く振ります。



ひとこと
メモ

「…は何ですか？」と質問をするとき

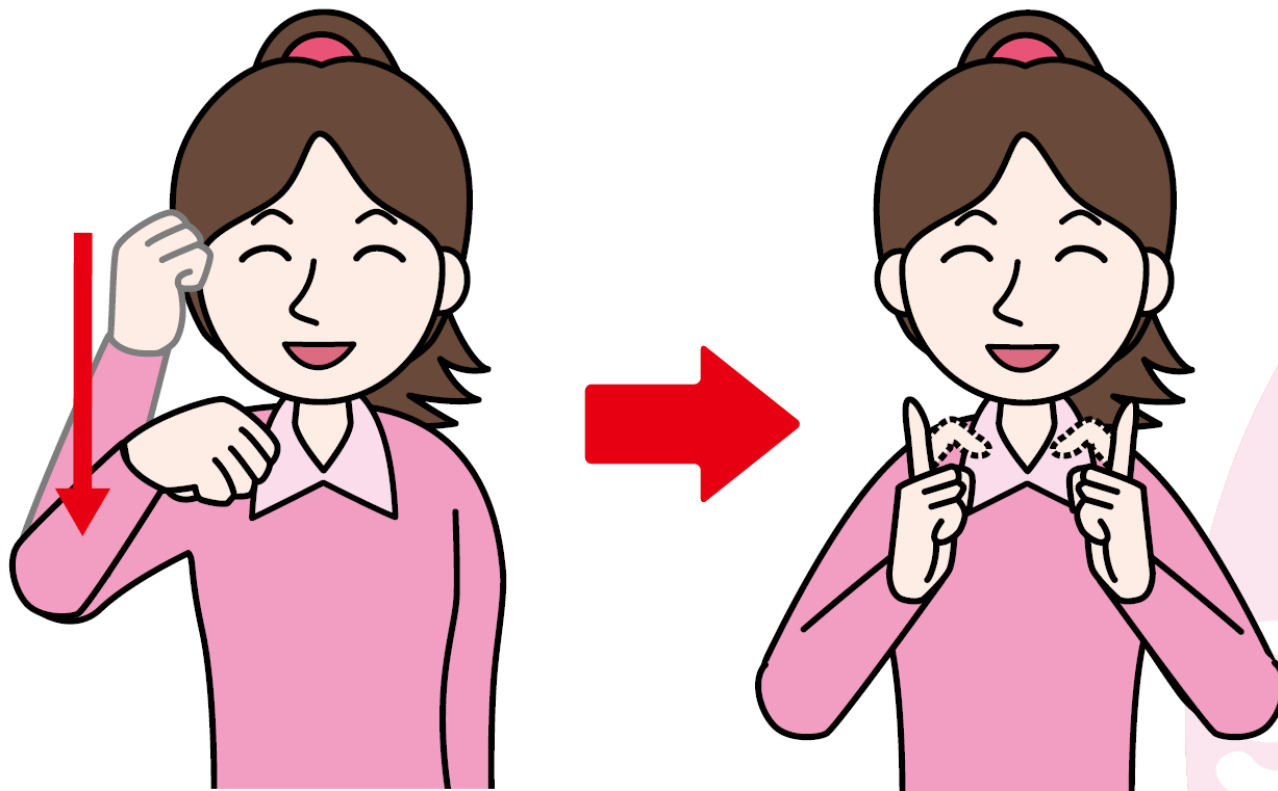
名詞

趣味・飲みもの・洋服・
本・色・機能・天気
など



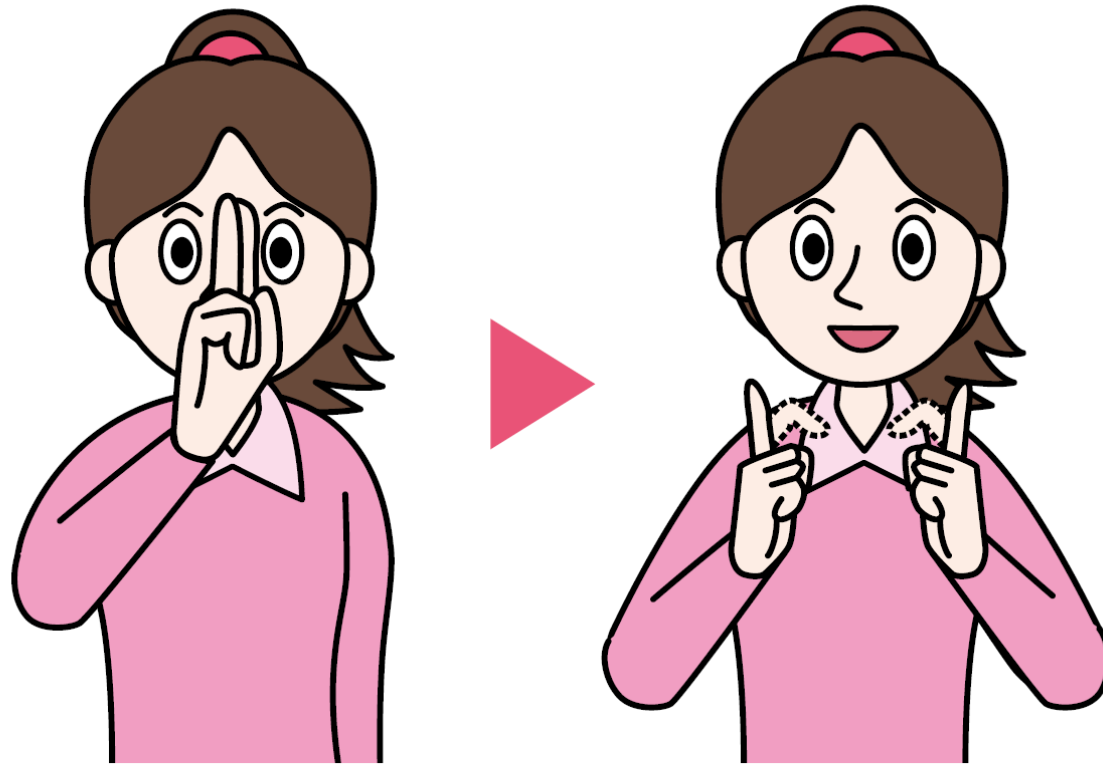
文末におき、右手の人差し指を立てて、左右に軽く振る。質問する表情をつけます。同じ動作で、「場所+何」で「どこ?」と表せます。

おはようございます!



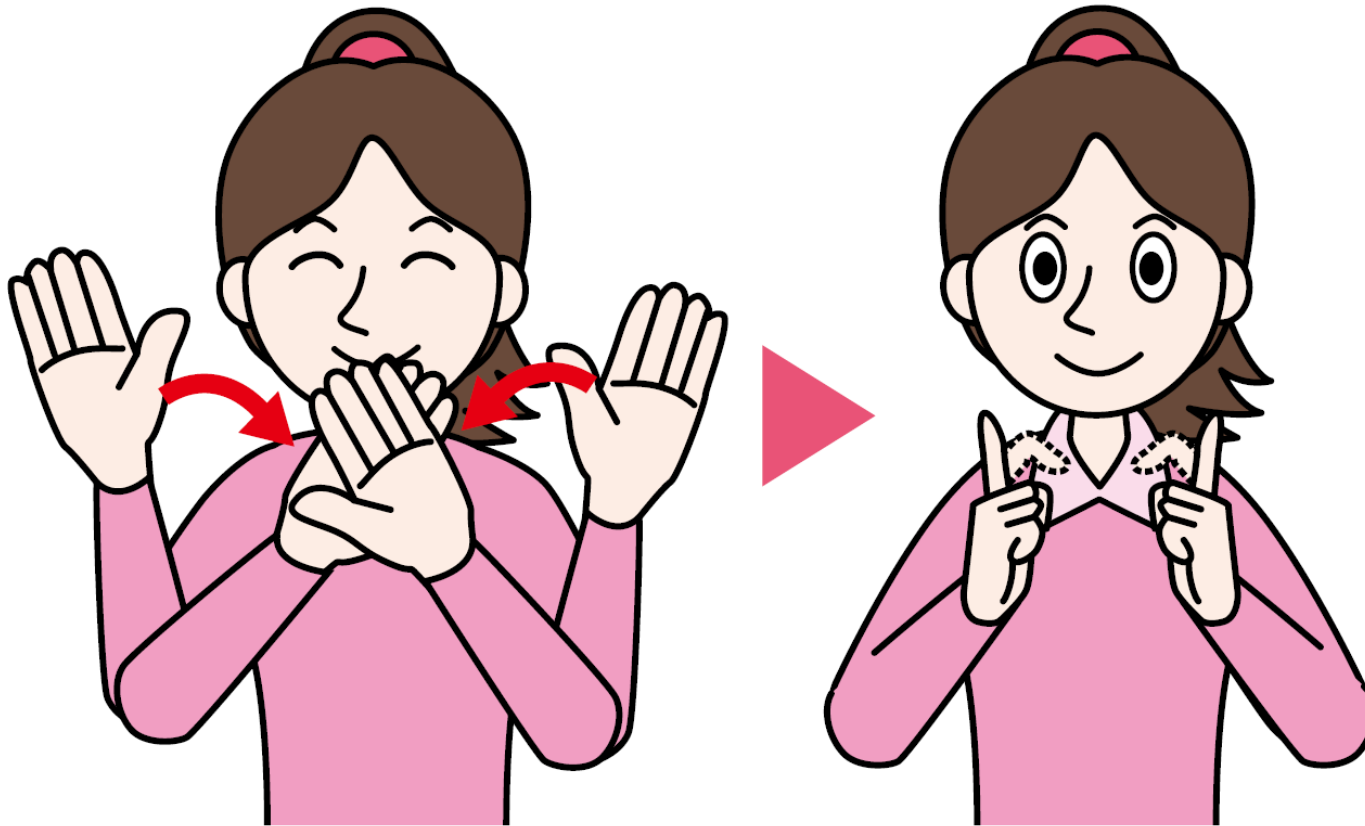
右手でこぶしを作り、こめかみのあたり
にあててから、下ろします。

こんにちは



右手の人差し指と中指を立て、人差し指側をひたいにあてます。

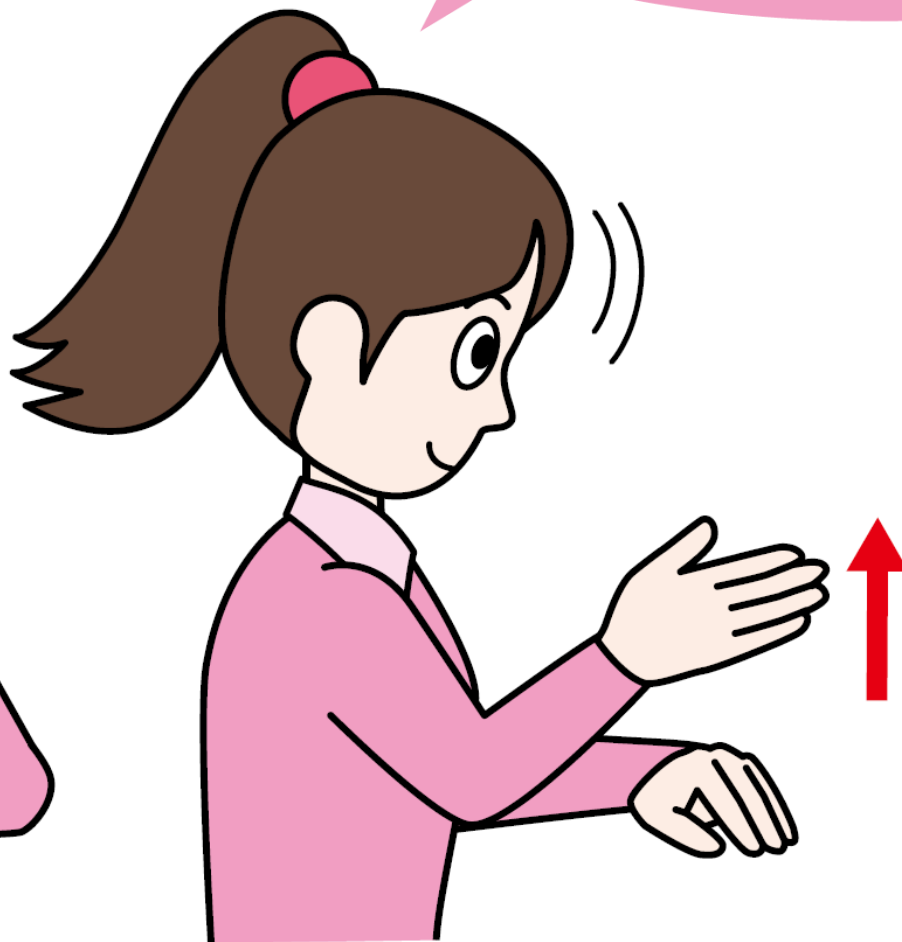
こんばんは！



手のひらを前に向けた両手を、顔の前で左右から交差させます。

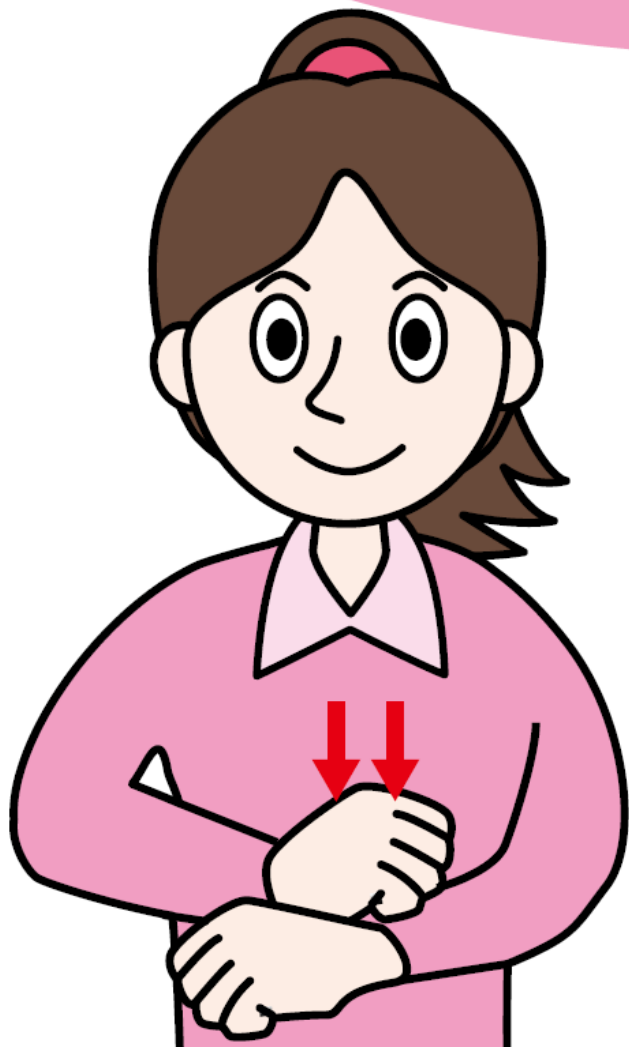
右手の手のひらの小指側を下にして垂直にあげます。

ありがとう！



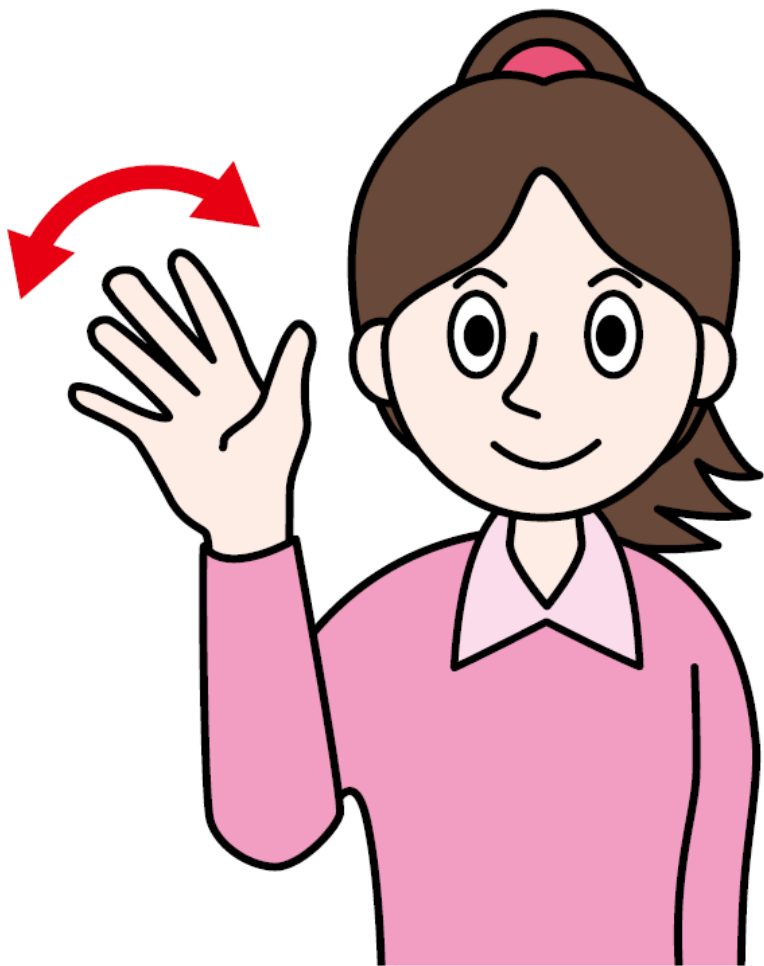
横からみたとき

おつかれさま！



右手のこぶしで左手の手首の甲側を
2回たたきます。

さようなら！



右手の手のひらを
前に向けて、左右
に軽く振ります。

また会いましょう！



また

右手でこぶしを作って、人差し指と中指を伸ばしながら左に倒します。



会話編
2-1

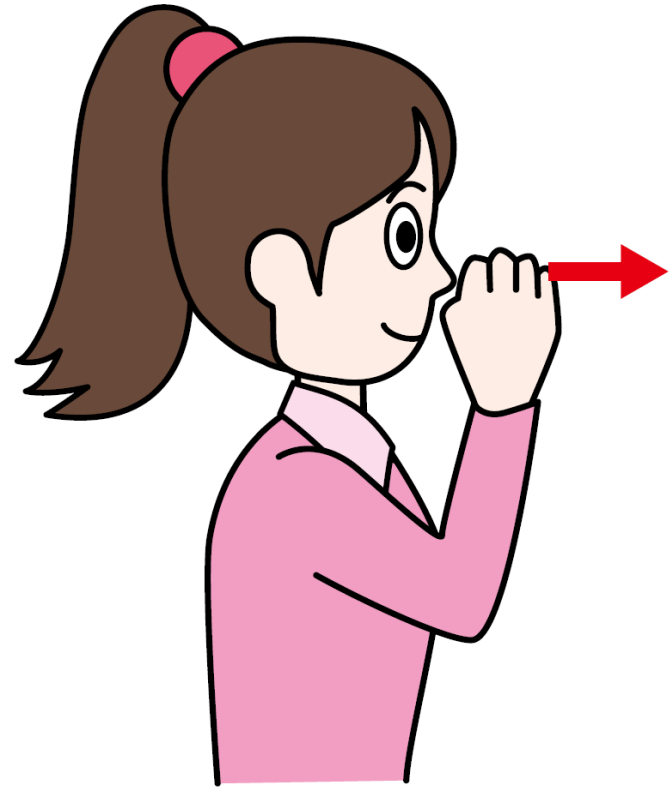
つたえる

いい天気だね！



天気

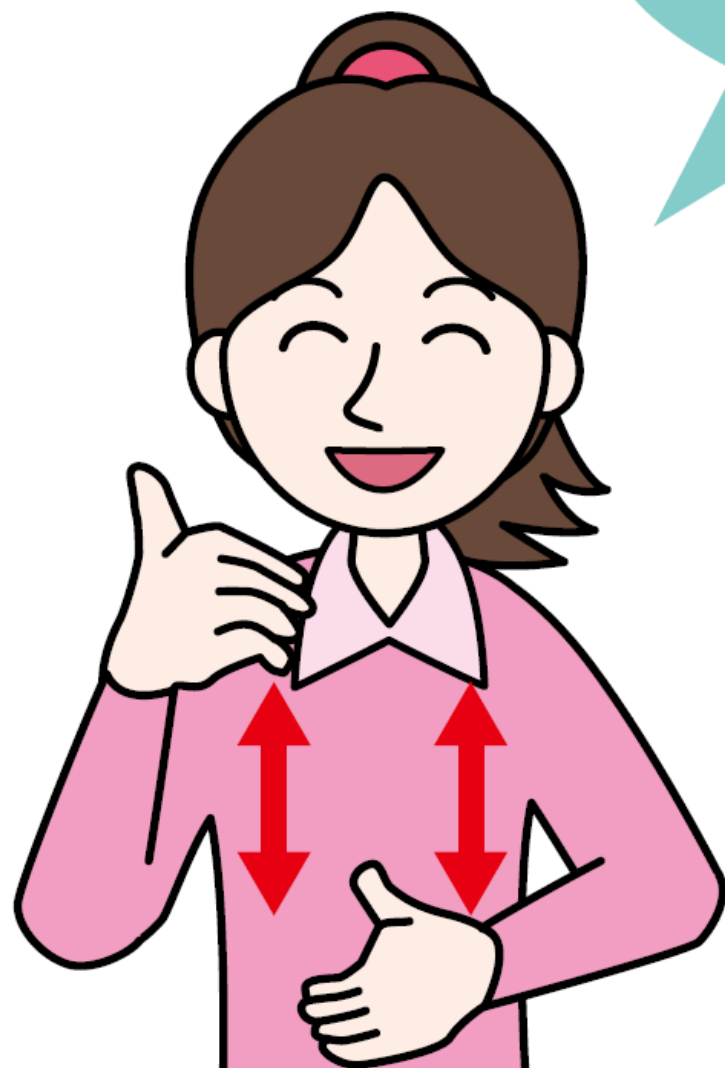
右手の手のひらを前に向け、
空に向かって弧を描きます。



よい

右手のこぶしを、鼻から
前に出します。

楽しい！



両掌を軽く曲げ、腕
の前で、交互に上
下に動かします。

きれい！



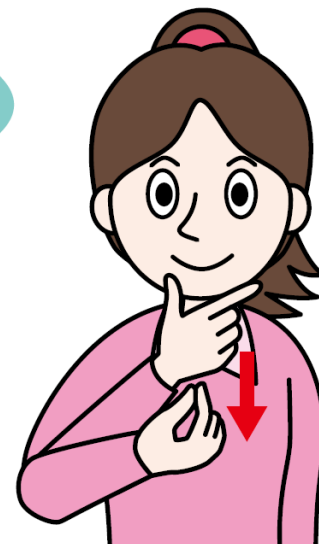
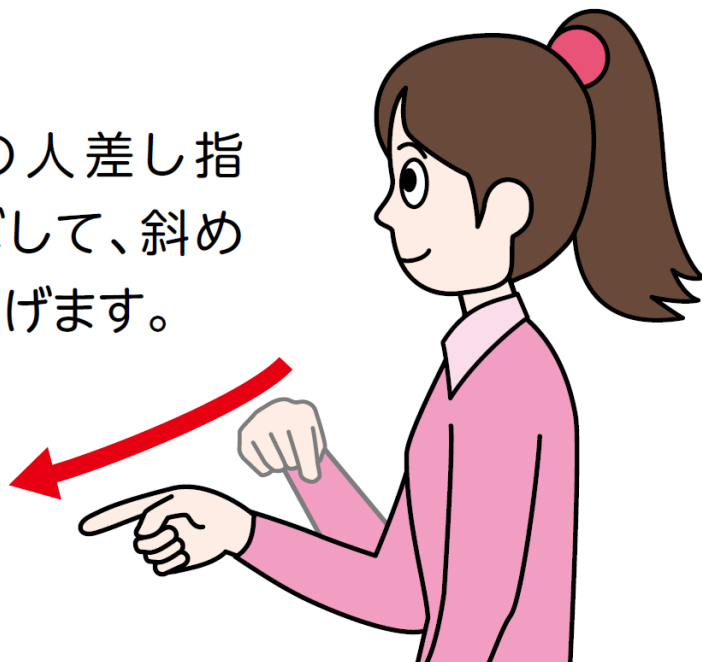
上向きにした左の
手のひらに右の手
のひらをのせ、右に
滑らせます。

場所

…へ行きたい

行く

右手の人差し指を伸ばして、斜め上に上げます。



~したい

右手の親指と人差し指を伸ばしてのどにあて、指を閉じて下げます。



ひとこと
メモ

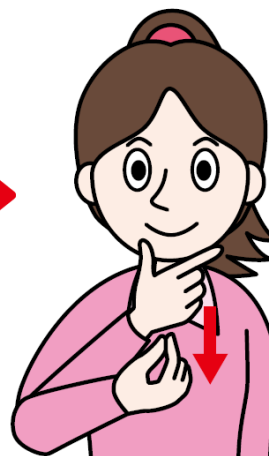
「…したい」と希望を示すとき

場所
物事



動詞

行く・食べる
見る など



文末におき、右手の親指と人差し指を開いてのどのの下にあて、下に引っ張るように両方の指を閉じます。

聴覚障害者が困ること

聴覚障害者は、聴力に障害があることから、日常生活で不自由を感じる場合があります。

例えば…。

問い合わせ先が電話番号しかない場合、電話がかかけられずに困ることがあります。



緊急時や災害時などで、アナウンスが聞こえず、状況が把握できないことがあります。

見た目からは聴覚に障害があるとわかりづらいことから、話しかけても無視されたと思われるなど、人とのコミュニケーションで誤解が生じることがあります。

電光掲示板がない窓口などでは、自分が呼ばれたことに気づかないことがあります。

聴覚障害者への配慮

聴覚障害者と接する時に、みなさんができる配慮があります。

例えば…。

聴覚障害者とコミュニケーションをとるときは、ゆっくり、はっきり、口元が見えるようにしましょう。

音声の代わりに、紙に書いたり、図で表したりするなど、視覚から情報が得られるようにしましょう。



補聴器を使用している人には、近付いて、正面から普通の大きさの声で話すようにしましょう。

会話編
2-2

つたえる



おいしい

右手の手のひらを右側のほおにつけて、2～3回軽くたたきます。



まずい

右手の指の腹をあごにつけてから前に出します。



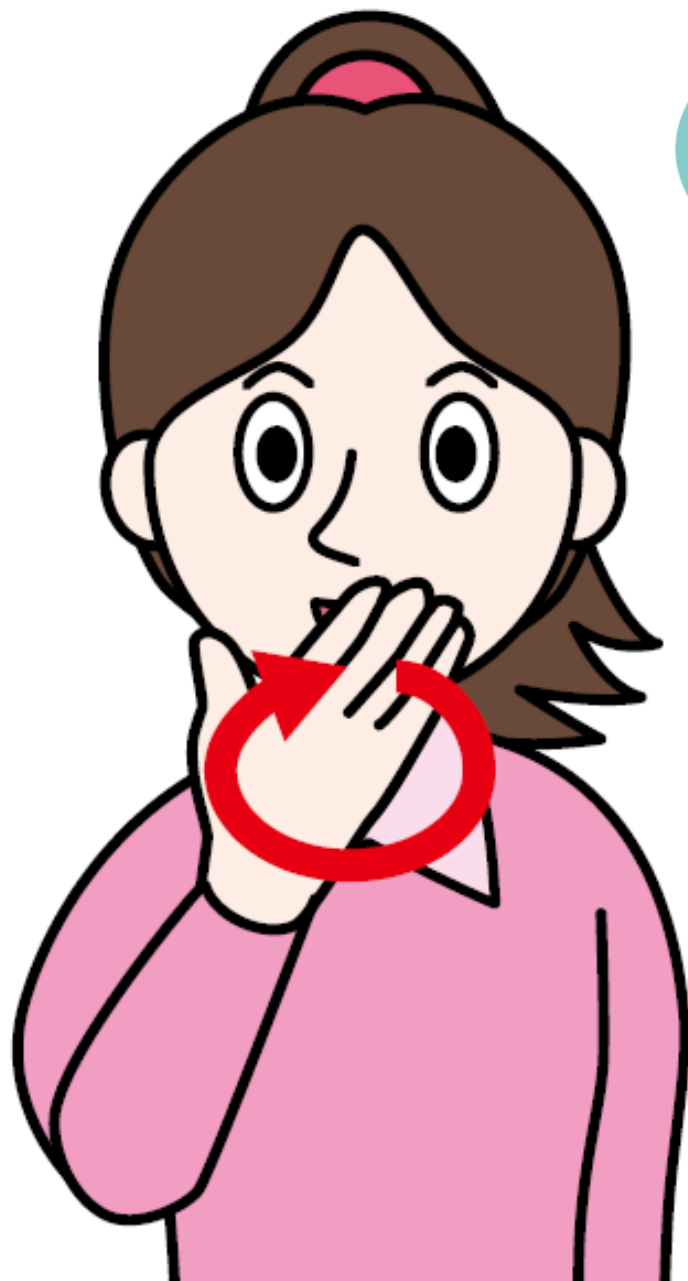
しよっぱい

立てた右手の小指の指先を唇に当てて、右へ少し動かします。

すっぱい



すぼめた右手を口元に持っていき、開きながら前に出します。



甘い

右手を開いて軽く
曲げ、口の前に持つ
ていき、回します。



辛い

指を伸ばした右手の
手のひらを口元にお
いて、回します。

頭が痛い！



頭

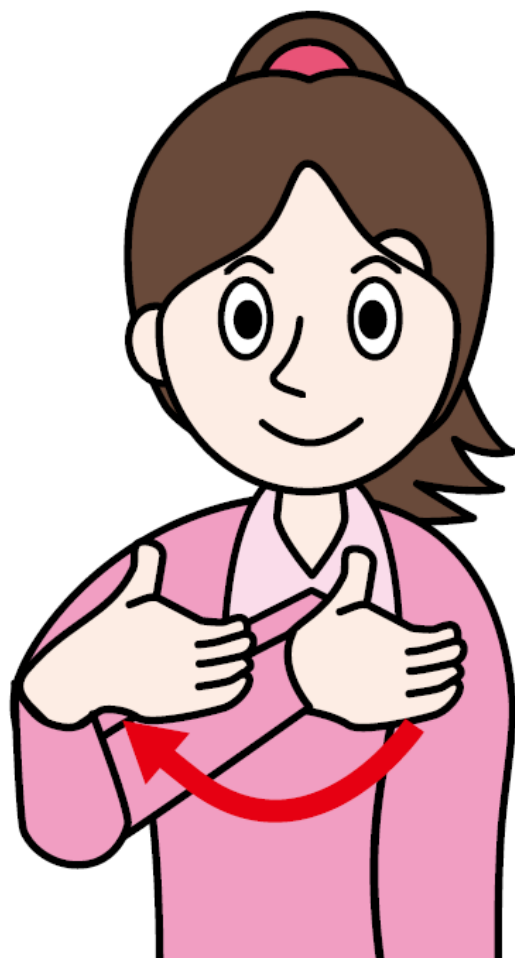
右手の人差し指で、こめかみを指します。



痛い

右手の指を開き、軽く曲げて、左右に小刻みに動かします。

大丈夫！ ・ できる



右手を左胸、右胸
の順にあてます。



悲しい！

右手の親指と人差し指の先をつけて目の下の位置から揺らしながら下げます。

冷たい

震える
しぐさ



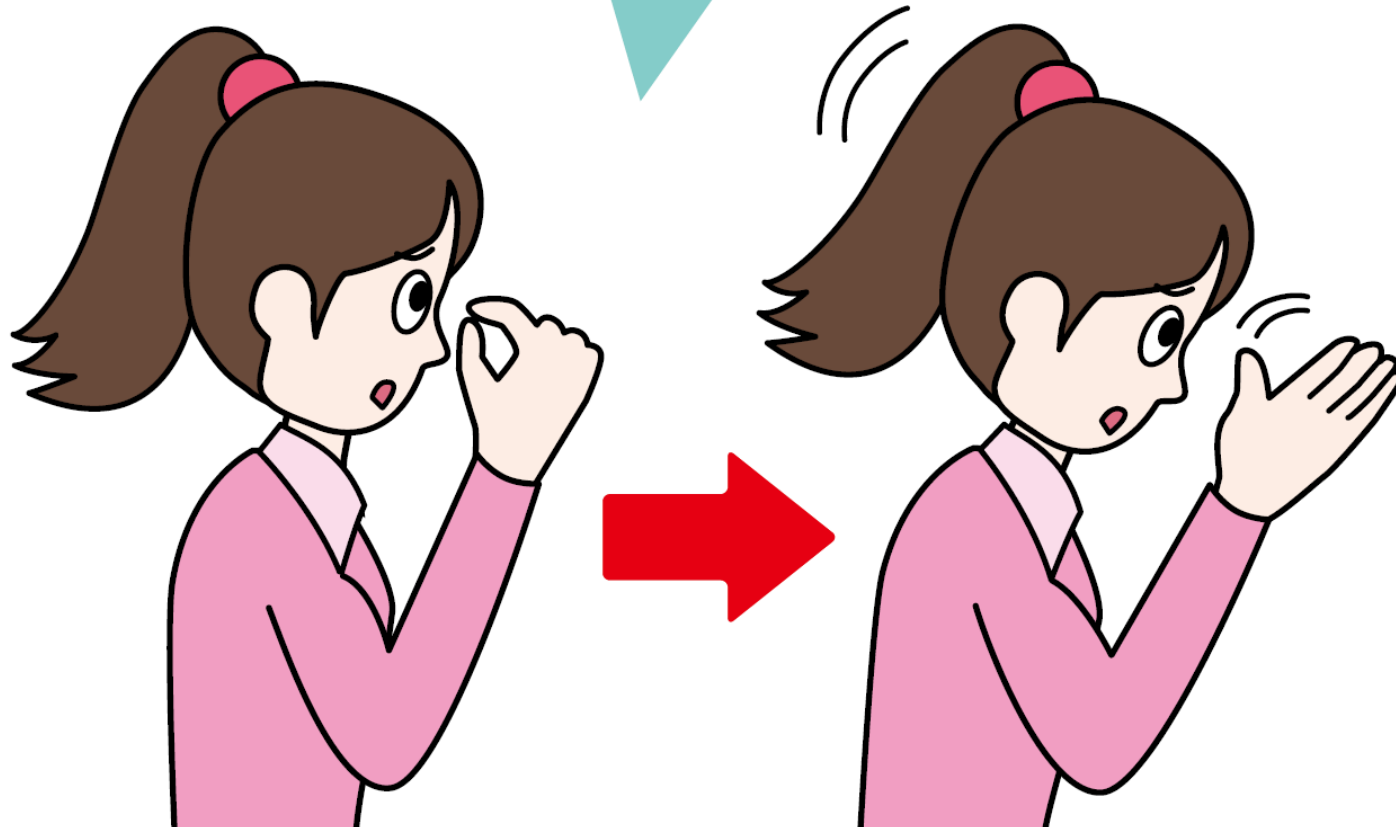
右手の指先を
下に向け、サッ
と上げます。

耳たぶに
ふれる



熱い

すみません…

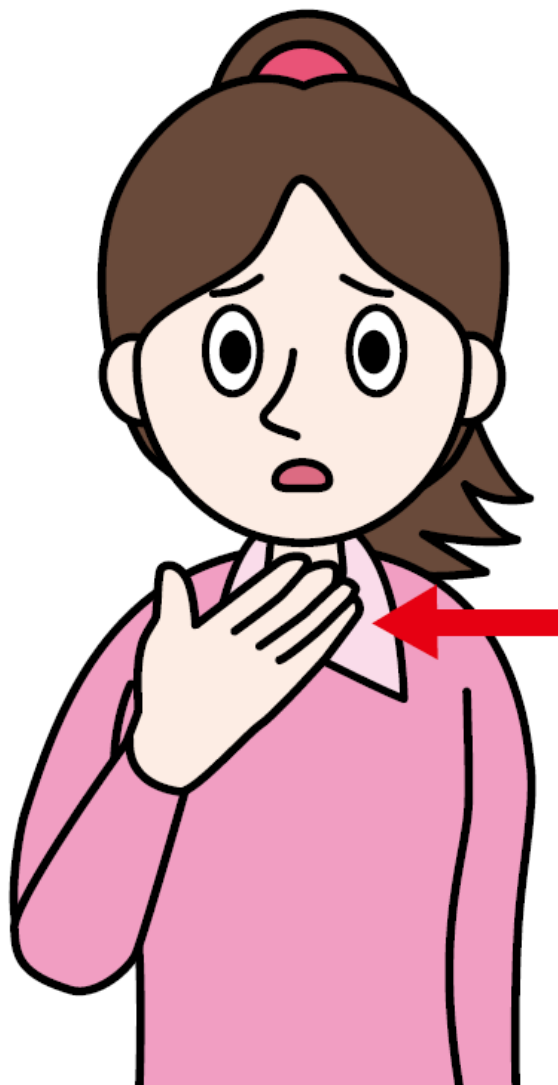


親指と人差し指で眉間(みけん)をつまむ
ようにし、指を伸ばして前に出します。

会話編
3

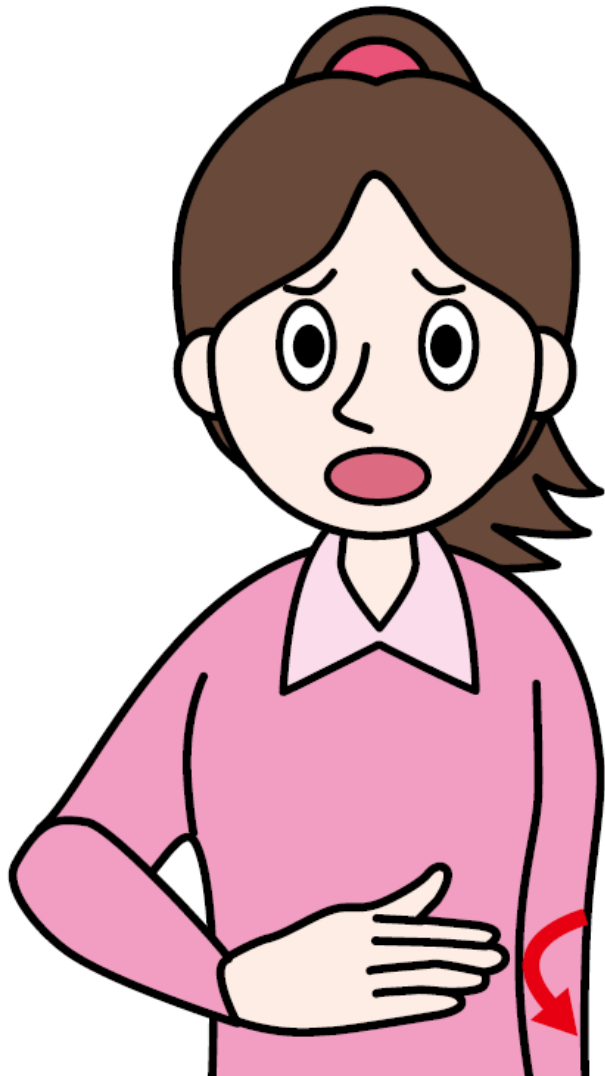
こんな時は？

のどがかわいた！



右手の指先をのどにあて、なでます。

おなかがすいた



お腹に右手の手のひら
をあてて、内側にへこ
ますようにしながら下
げます。



親指と人差し指を
少しあけます。

お手洗いはあちらです



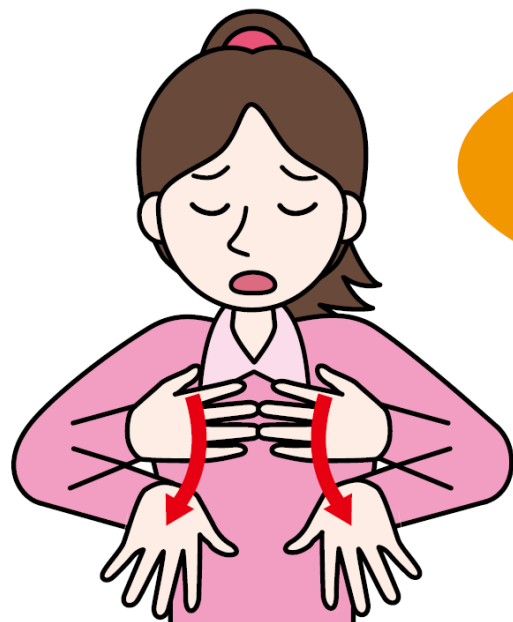
トイレ

右手の親指と人差し指を軽く曲げ、中指と薬指、小指を立てます。

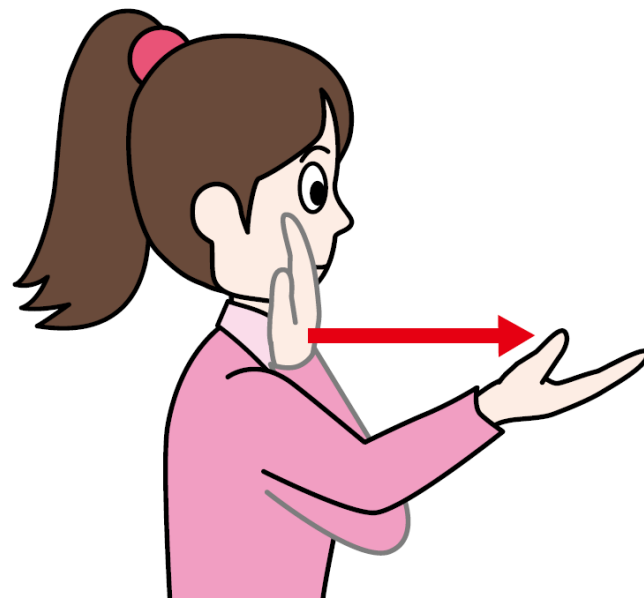


あちら

手の甲を上にして、人差し指で方向を指差します。



疲れた？



疲れる

両手の指を軽く開いて甲を前に向け、胸のあたりから両手の指先をだらりとを下ろします。

尋ねる（～ですか）

右手の手のひらを手前に向けて顔の横におき、ひじを軸に前に出します。

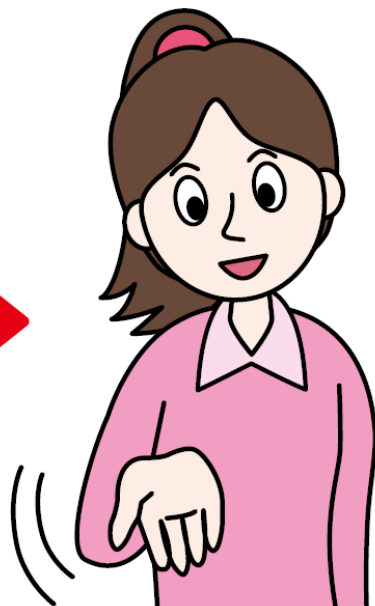


ひとこと
メモ

「…ですか？」と尋ねるとき

形容詞

楽しい
おいしい
寒い など



形容詞のあとに、右手の手のひらを手前に向けて顔の横におき、ひじを軸に前に出します。

※「ですか？」の手話をしなくても、眉をつりあげたり、体を前にちょっと倒しながら手話をしても、疑問形の表現になります。

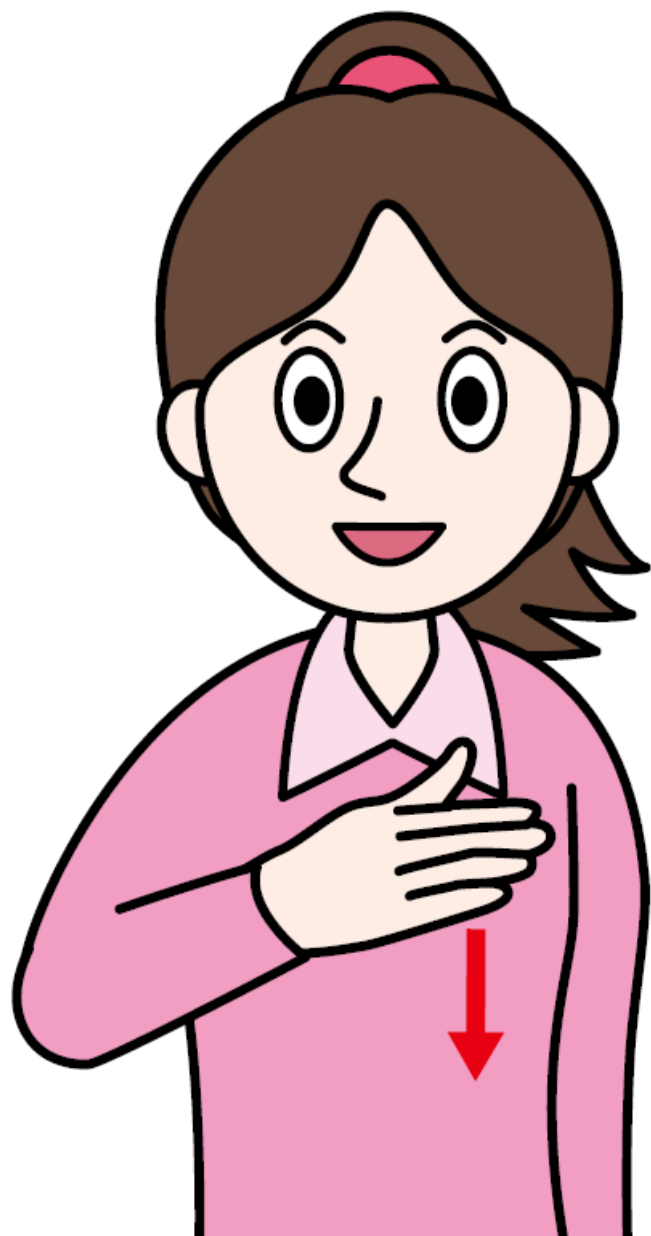
物



…を探しています！

探す

右の親指と人差し指で輪を作って目の前におき、円を描いて右に動かします。



分かる！

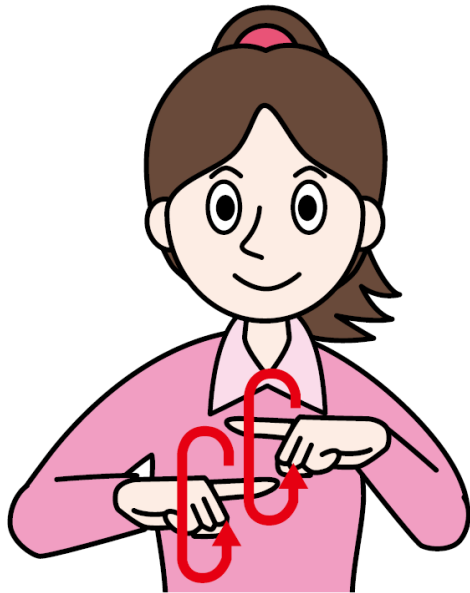
右手の手のひら
で、胸を上から
下に向かってな
でます。



分からない！

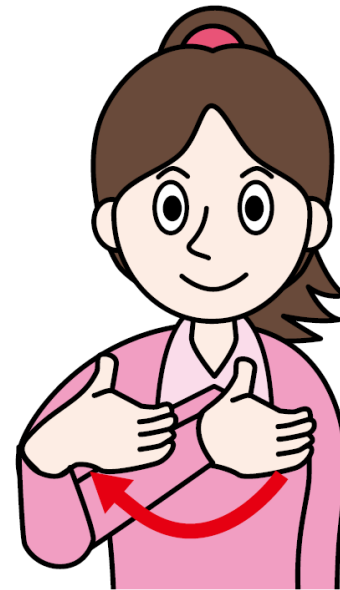
右手の指先で、右肩のあたりを2回上に払います。

手話ができます。



手話

両手の人差し指を横に伸ばして向かい合わせ、交互に前に回します。

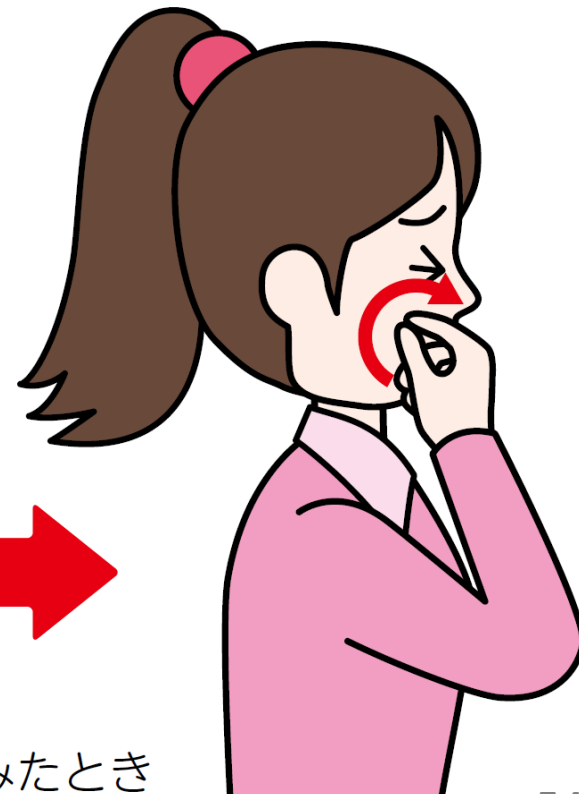


～ができる

右手の親指以外の4本の指の指先を、左胸、右胸の順にあてます。

できません。・難しいです。

右手の親指と人差し指で、
右のほおの横でひねります。



横からみたとき

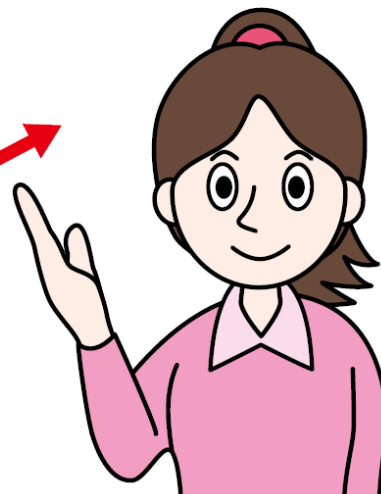


ひとこと
メモ

「…でない」と否定するとき

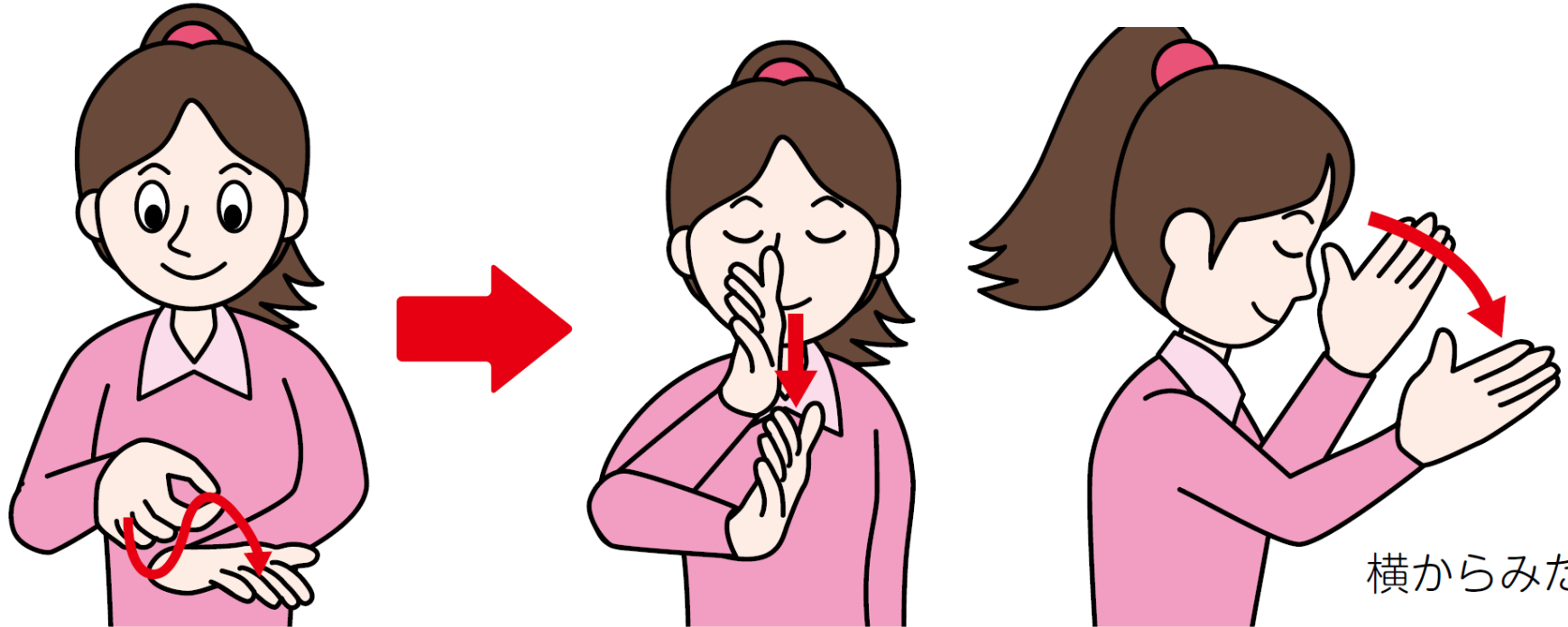
形容詞・動詞

楽しい・おいしい・
寒い・行く・買う・
決める など



形容詞や動詞のあとに、右手の手のひらを横に向けて、左右に軽く2～3回動かします。

筆談をお願いします。



横からみたとき

筆談

左手の手のひらの上で、右手でペンを持って何かを書くように動かします。

お願いします

右手を顔の前に垂直に立て、頭を軽く下げながら斜め下に出します。

昨日



右手の人差し指を立て、肩のところから後ろに持ってきます。

日時の表現

今日



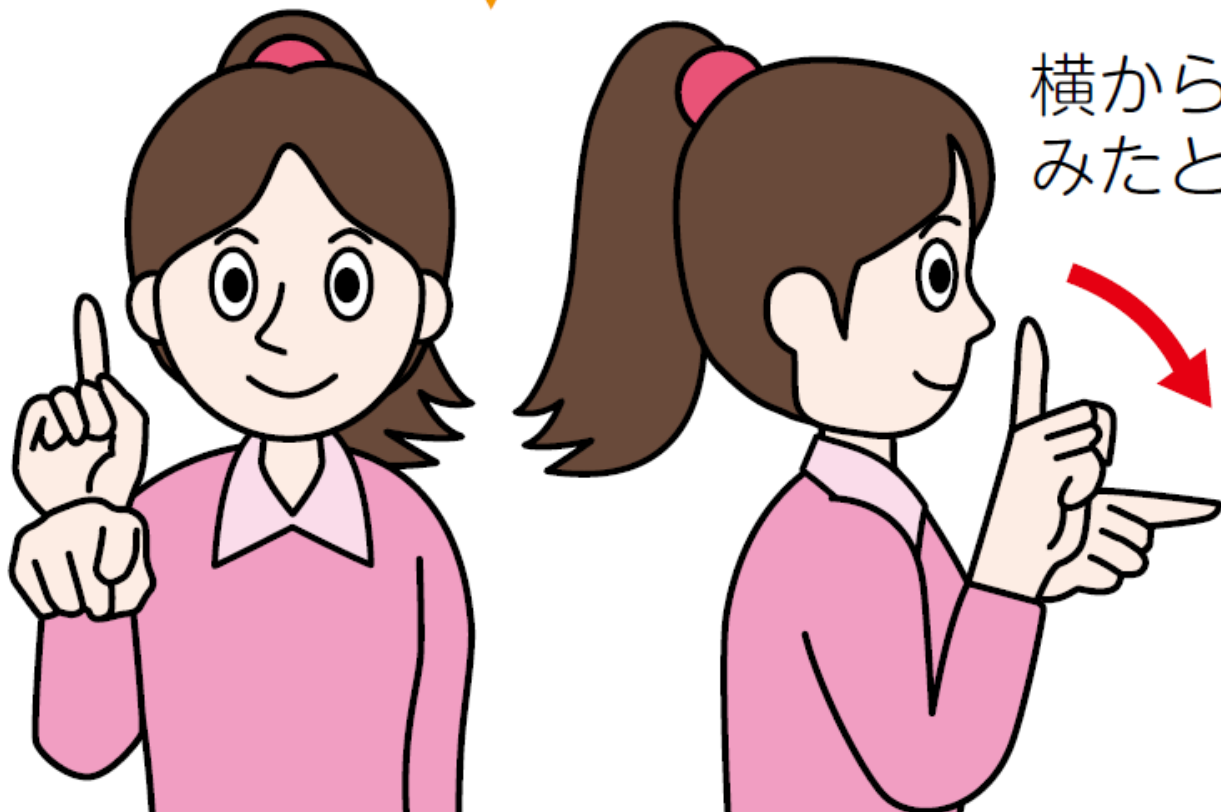
両手の手のひらを下に向けて並べ、少し下げます。

日時の表現

明日

右手の人差し指を立てて、肩の位置から前に出します。

横から
みたとき



日時の表現

午前

右手の人差し指と中指をそろえてひたいにつけ、右に傾けます。

日時の表現



午後

右手の人差し指と中指
をそろえてひたいにつ
け、左に傾けます。

日時の表現



会話編
4

非常時には



逃げて！

両手でこぶしを作って、同時にすばやく横に動かします。

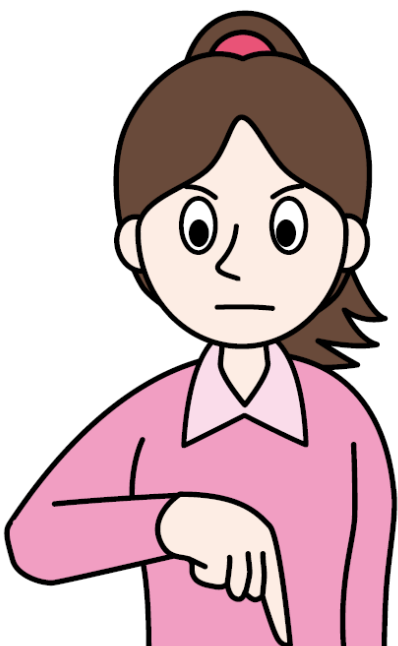


あぶない！

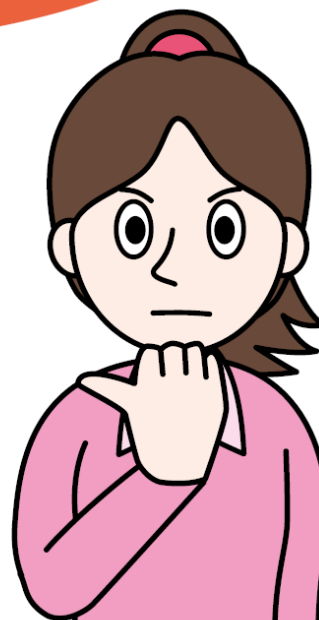
両手の指を軽く曲げて、
2回胸を素早くたたきま
す。

右手だけを使うことも
あります。

ここで待ってて!!



こちら
(ここ)
自分のいる
ところを指
さします。



待つ
右手の親指以外の
4本の指を軽く曲
げ、手の甲側をあご
の下にあてます。

指文字

指文字は日本語の「かな」にあたるもので、50音のほか、濁音や半濁音なども表現できます。基本的にきき手を使い、肩(かた)の前あたりで形を作ります。

ここに紹介している指文字は、相手側から見た形です。

ふきだしは横から見た形です



<p>あ</p> <p>手の形が、相手から見て「a」の形。</p>	<p>か</p> <p>アルファベットの指文字「K」から。</p>	<p>さ</p> <p>アルファベットの指文字「S」から。</p>	<p>た</p> <p>アルファベットの指文字「T」の変形。</p>
<p>い</p> <p>アルファベットの指文字「I」から。</p>	<p>き</p> <p>キツネを表しています。</p>	<p>し</p> <p>数字の手話「7」から。</p>	<p>ち</p> <p>ちに似ていることから、数字の手話「千」。</p>
<p>う</p> <p>アルファベットの指文字「U」から。</p>	<p>く</p> <p>数字の手話「9」から。</p>	<p>す</p> <p>カタカナの「ス」の字形から。</p>	<p>つ</p> <p>カタカナ「ツ」の形から。</p>
<p>え</p> <p>アルファベットの指文字「E」から。</p>	<p>け</p> <p>敬礼(けいれい)するときの手の形から。</p>	<p>せ</p> <p>「いちばん背(せ)の高い指」から。</p>	<p>て</p> <p>「手」を示しています。</p>
<p>お</p> <p>アルファベットの指文字「O」から。</p>	<p>こ</p> <p>カタカナの「コ」の一部から。</p>	<p>そ</p> <p>「それ」を指す動作から。</p>	<p>と</p> <p>「〜と…」の2つの物の意味。</p>

<p>な</p> <p>アルファベットの指文字「N」から。</p>	<p>は</p> <p>アルファベットの指文字「H」から。</p>	<p>ま</p> <p>アルファベットの指文字「M」から。</p>	<p>や</p> <p>アルファベットの指文字「Y」から。</p>
<p>に</p> <p>数字の手話「2」から。</p>	<p>ひ</p> <p>数字の手話「1」から(ひい、ふう、みい)の「ひ」。</p>	<p>み</p> <p>数字の指文字「3」、または「ミ」の字形から。</p>	<p>ゆ</p> <p>温泉マーク「ゆ」から。</p>
<p>ぬ</p> <p>「盗(ぬす)む」を示すしぐさから。</p>	<p>ふ</p> <p>自分から見てカタカナの「フ」の形。</p>	<p>む</p> <p>数字の指文字「6」から。</p>	<p>よ</p> <p>数字の指文字「4」から。</p>
<p>ね</p> <p>木の根の形から。</p>	<p>へ</p> <p>ひらがなの「へ」の形。</p>	<p>め</p> <p>つぶれた丸が「目」の形。</p>	
<p>の</p> <p>カタカナの「ノ」の字形から。</p>	<p>ほ</p> <p>船の帆(ほ)を表しています。</p>	<p>も</p> <p>「〜も同じ」の手話から。</p>	

指文字

<p>ら</p> <p>アルファベットの指文字「R」から。</p>	<p>わ</p> <p>アルファベットの指文字「W」から。</p>	<p>っ</p> <p>促音</p> <p>「つ」の指文字を自分のほうへ引きます。</p>
<p>り</p> <p>自分から見て「り」と書きます。</p>	<p>を</p> <p>もとの指文字を横へ10cmくらい動かします。</p>	<p>例：だ</p> <p>濁音</p> <p>もとの指文字を横へ10cmくらい動かします。</p>
<p>る</p> <p>相手から見て「ル」の形。</p>	<p>を</p> <p>「お」と同じ形を作り、自分のほうへ引きます。</p>	<p>例：ゆ</p> <p>拗音</p> <p>もとの指文字を自分のほうへ引きます。</p>
<p>れ</p> <p>相手から見て「レ」の形。</p>	<p>ん</p> <p>カタカナ「ン」の字形から。</p>	<p>例：ぱ</p> <p>半濁音</p> <p>「は」の指文字を自分のほうへ引きます。</p>
<p>ろ</p> <p>カタカナの「ロ」の一部。</p>		<p>ー</p> <p>長音</p> <p>人さし指で上から下へ線を引きます。</p>

数字

<p>0</p> <p>親指と人さし指で輪を作ります。</p>	<p>1</p> <p>人さし指を立てます。</p>	<p>2</p> <p>人さし指と中指を立てます。</p>	<p>3</p> <p>人さし指、中指、薬指を立てます。</p>
<p>4</p> <p>親指以外の4指を立てます。</p>	<p>5</p> <p>こぶしを作り、親指のみ横にのばします。</p>	<p>6</p> <p>手の甲(こう)を前に向け、親指を上、人さし指を横にのばします。</p>	<p>7</p> <p>手の甲を前に向け、親指を上、人さし指と中指を横にのばします。</p>
<p>8</p> <p>手の甲を前に向け、親指を上、小指以外の3指を横にのばします。</p>	<p>9</p> <p>手の甲を前に向け、親指を上、それ以外の4指を横にのばします。</p>	<p>10</p> <p>人さし指を立てて「1」を作り、のびた指を折り曲げ、少し右にずらします。</p>	
<p>百 例：200</p> <p>「二」の数字を横から上にはねあげます。</p>		<p>千 例：3000</p> <p>「三」の数字で、「千」を書くように動かします。</p>	
<p>万 例：4万</p> <p>「4」を作り、指先を前に向けて5本の指をつけます。</p>		<p>億 例：5億</p> <p>「5」を作り、手のひらを少し開き、手前に引きながらにぎります。</p>	